

6 3 6 1 - 7 6 8
平成 1 8 年 9 月 2 7 日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 所長

平成 1 8 年度病害虫発生予報第 6 号について
平成 1 8 年度病害虫発生予報第 6 号を発表したので送付します。

平成 1 8 年度病害虫発生予報第 6 号

向こう 1 か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。
発生予報の概要

作物名	病害虫名	発生量の 平年比	記載ページ
野菜・花き類	ハスモンヨトウ等のチョウ目害虫	やや多	2
トマト	トマト黄化葉巻病		2
カンキツ類	ミカンハダニ	並	3
果樹全般	果樹カメムシ類		3
チャ	炭疽病	並	3
	チャノコカクモンハマキ	並	3
	チャハマキ	並	3
	チャノホソガ	並	3
	カンザワハダニ	並	4
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや多	4
	チャノキイロアザミウマ	やや多	4
	クワシロカイガラムシ	多	4

作物の生育状況（9月中旬）

普通期水稲は乳熟期～黄熟期、温州みかんは収穫前～収穫期、茶は秋芽生育期であった。

10月の気象予報

気温は平年並か高い、降水量・日照時間は平年並と予想されている。

（1か月予報 鹿児島地方気象台 9月22日発表）

発生予報の根拠および防除対策

野菜・花き類

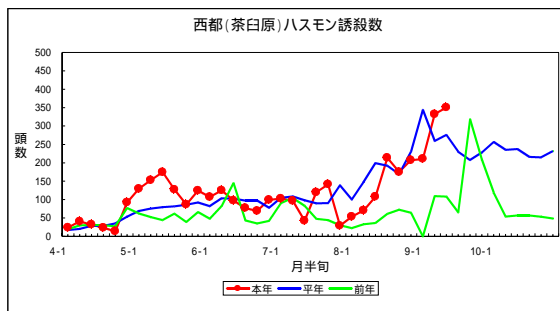
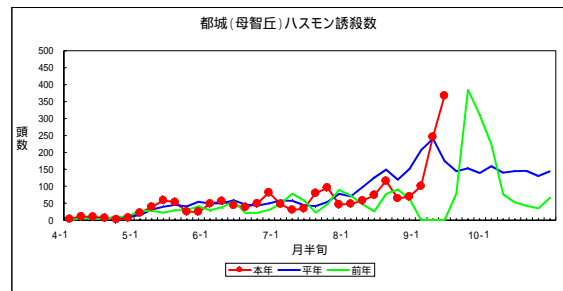
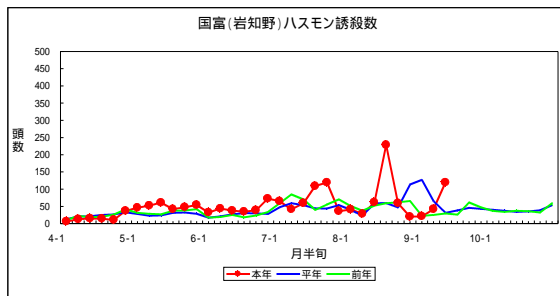
1 ハスモンヨトウ等のチョウ目害虫（やや多）

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬の発生面積率はダイズ・サツマイモともに100%（平年ダイズ89.5%、サツマイモ88.6%）でいずれも平年並である。
- 2) 都城市、西都市、国富町に設置したフェロモントラップによる誘殺数は、いずれの地点でも9月2～4半月以後、平年より多い傾向である。

[防除上の注意]

- 1) 幼虫が大きくなると薬剤が効きにくくなるので、早期発見に努め若令幼虫期に防除する。



ハスモンヨトウのフェロモン
トラップ誘殺数

トマト

1 トマト黄化葉巻病（-）

[防除上の注意]

- 1) 8月下旬定植の一部の地域では、すでに本病の発生が確認されており、育苗時に感染した可能性が高いと考えられる。
- 2) 病原ウイルスは、タバココナジラミ類（シハ^o-リ^oコナジ^oラミ、タハ^oコナジ^oラミハ^oイタイ^oQ）によって伝染されるので、媒介虫の施設内への飛び込みを防止し、増殖しないよう防除を行う。また発病株は見つけ次第抜根し、ほ場から持ち出し埋没処分する。
- 3) 育苗期に感染すると被害が激しく全滅する場合もあるので、媒介虫の施設への侵入を防ぐため、育苗・栽培施設の開口部には、0.4mm以下の防虫ネットを設置するとともに、育苗期間中の防除を徹底する。
- 4) 定植時には粒剤処理を行うとともに、栽培期間中を通してタバココナジラミ類の防除を徹底する。また、黄色粘着トラップを設置し、タバココナジラミ類の早期発見・密度抑制に努める。

- 5) タバココナジラミ バイオタイプQは、各種薬剤に対する感受性が低く防除効果が劣る場合があるので、適切な薬剤の選択が必要である。
- 6) タバココナジラミ類は多くの植物に寄生し、増殖するので、育苗・栽培施設内外の除草を徹底するとともに栽培目的以外の作物や観葉植物等を持ち込まない。

カンキツ類

1 ミカンハダニ (並)

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬の発生面積率35.0% (平年39.8%)、寄生葉率6.0% (平年10.9%) は平年並である。
- 2) 今後1か月は、気温は平年並みか高い、降水量は平年並と予想され、ハダニの発生に好適であると考えられる。

[防除上の注意]

- 1) 果実に寄生すると外観を損なうので防除を徹底する。
- 2) 生息密度が高くなると防除効果が劣るので、寄生葉率30%、10葉当たり虫数5～10頭を目安に、増殖初期に防除を行う。

果樹全般

1 果樹カメムシ類 (-)

[予報の根拠]

- 1) 県内ほぼ全域の果樹園で、平年より早い8月中旬に飛来が確認されている。
- 2) 果樹カメムシ類は園外から飛来し、地域や時期によって発生量が大きく変動するので、園内外を見回り、早期発見・早期防除に努める。

チャ

1 炭疽病 (並)

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬の発生面積率52.9% (平年52.5%) は平年並み、 m^2 当たり病葉数1.9 (平年5.4) は平年よりやや少である。

2 チャノコカクモンハマキ (並)

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬のほ場での発生は未確認 (平年2.1%) である。
- 2) 都城市及び三股町に設置したフェロモントラップ調査では、発蛾最盛期は8月6半旬～9月1半旬で、平年並である。

3 チャハマキ (並)

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬のほ場での発生は未確認 (平年1.1%) である。

4 チャノホソガ (並)

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬の発生面積率41.2% (平年54.5%) は平年並み、 m^2 当たり巻葉数1.6 (平年3.4) は平年よりやや少ない。

5 カンザワハダニ (並)

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬の発生面積率29.4%(平成37.5%)は平成並、寄生葉率1.2%(平成3.1%)は平成よりやや少である。

[防除上の注意]

- 1) 防除適期は越冬前の10月中下旬である。本県では冬期でもダニの繁殖が見られるため越冬前の防除がより重要で、この時期の防除が十分でない翌年の一番茶への影響が大きい。
- 2) 同一薬剤、系統の連用を避け、作用性の異なる薬剤のロ-テ-ション散布を実施する。

6 チャノミドリヒメヨコバイ (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬の発生面積率41.2%(平成27.4%)、寄生葉率1.9%(平成1.3%)は平成よりやや多い。

7 チャノキイロアザミウマ (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬の発生面積率58.8%(平成25.0%)、寄生葉率4.9%(平成2.0%)は平成より多である。

8 クワシロカイガラムシ (多)

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬の巡回調査では発生面積率35.3%(平成10.3%)は平成より多、寄生株率3.6%(平成2.1%)は平成よりやや多である。

[防除上の注意]

- 1) 最近、増加傾向にあるので早期発見に努める。(周縁部から発生しやすい。)
- 2) 防除適期は幼虫ふ化最盛期なので、県南部の第4世代の発生する地域ではふ化状況をよく観察して防除する。発生のない地域では来年春先に適切な防除を行う。
- 3) 薬剤散布は、枝幹に十分かかるようにていねいに散布する。

農薬散布時のドリフト対策について

- 1 ポジティブリスト制度の施行に伴い、農薬の使用については今まで以上に厳重な注意を払うことが必要です。
- 2 風の弱いときに、ノズルや散布方向、噴霧圧力などに注意して、適正な農薬散布を心がけましょう。
- 3 地域でよく話し合い、農薬の使用時期や農産物の栽培内容などを十分調整しましょう。
- 4 農薬の散布について疑問点がありましたら、病虫害防除・肥料検査センターもしくは最寄りの農業改良普及センターへお問い合わせください。

その他

- 1 農薬適用の有無などについては次のホームページで確認する。
日本植物防疫協会ホームページ <http://jppn.ne.jp>
農林水産省ホームページ <http://www.maff.go.jp/nouyaku/>
- 2 農薬の使用に当たっては、農薬使用基準の遵守並びに危被害の発生防止に努める。特に水質汚濁性農薬ベンゾエピン剤(商品名、マリックス乳剤、粒剤等)は使用しないこと。

3 発生量（程度）の区分

多い	（高い）	やや多いの外側10%の度数の入る幅
やや多い	（やや高い）	平年並の外側20%の度数の入る幅
平年並		平年値を中心として40%の度数の入る幅
やや少ない	（やや低い）	平年並の外側20%の度数の入る幅
少ない	（低い）	やや少ないの外側10%の度数の入る幅 （平年値は過去10年間の平均）

4 予察情報の種類

病虫害防除・肥料検査センターから発表する情報は次の5つです。

- 1) 予報・・・向こう1か月の発生状況を予測し、毎月25日前後に発表する。
- 2) 注意報・・・主要な病虫害の多発生が予想され、かつ早めに防除が必要な場合に発表する。
- 3) 警報・・・主要な病虫害の大発生が予想され、かつ緊急に防除が必要な場合に発表する。
- 4) 特殊報・・・県内で初めて発生を認めた病虫害がある時や、病虫害の発生様相が特異な時に発表する。
- 5) 防除情報・・・注意をうながす必要がある病虫害の発生状況や、各種の防除技術指導情報について随時発表する。

お知らせ (<http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/>)

病虫害防除・肥料検査センターでは、ホームページで情報を提供しています。予察情報の根拠となる地域別調査データ、防除対策等を掲載しています。ぜひご利用ください。

【文書取扱】

病虫害防除・肥料検査センター 櫛間

TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-7499

E-mail: byogaichu-hiryo

@pref.miyazaki.lg.jp